

横浜経済活性化特別委員会 調査・研究テーマ（案）

付議事件

企業等の誘致、創業・ベンチャー支援や新しい産業を創出し、市内企業の成長・発展を進め、また雇用環境の整備や都市農業の振興を図るなど市民生活を支える地域経済の活性化施策の推進を図ること。

◆ 調査・研究テーマ（案）

「震災後の横浜経済活性化施策について」

【選定理由】

東日本大震災による横浜経済への影響は甚大であり、放射線問題などの風評被害により、市内への観光客数も減少傾向にある。また同時に、取引先企業の被災や自粛ムードなどにより、市内中小企業も大変厳しい状況におかれている。

そこで、横浜経済の活性化のためには、「横浜市中小企業振興基本条例」の趣旨を踏まえ、まず本市における中小企業への支援について検証し、市内中小企業の経営改善の促進を図るとともに、トリエンナーレなどのイベントの経済効果を検証し、イベントやニューツーリズムを通じて横浜の魅力を効果的に発信していくことで、国内外からの集客を促進させる必要があると考える。

したがって、今年度の本委員会では、「震災後の横浜経済活性化施策」をメインテーマとし、中小企業支援施策、及び横浜への集客とにぎわいづくりについて議論していきたい。

【論点等】

- ・震災による中小企業への影響の把握、及び中小企業への支援施策について
- ・横浜への集客、にぎわいづくりについて

横浜市景況・経営動向緊急調査（平成 23 年 4 月実施）＜概要＞ －東日本大震災の発生に伴う市内企業への影響について－

横浜市経済局では、東日本大震災に伴う市内企業の経営状況等の実態を把握するため、緊急調査を実施しました。（調査期間：平成 23 年 4 月 15 日～同 4 月 27 日）

調査結果のまとめ

平成 23 年 4 月の自社業況 BSI は▲48.5 と、震災前に実施した前回調査（平成 23 年 1-3 月期）から 24.0 ポイント低下しました。自社業況を「悪い」と回答した企業は 54.0% であり、悪いと回答した企業の 8 割が「震災の影響」を理由にあげています。先行きについては、平成 23 年 6 月末は▲59.9 と引き続き低下の見通しです。

東日本大震災の市内企業への影響については、「受注・販売・売上の減少」と回答した企業が 50.8% と半数以上にのぼり、以下、「部品・原材料・商品等の調達困難」（36.7%）、「生産量の減少や稼働率の低下」（24.7%）となっています。

企業が今後必要と考えていることでは、「新規の販売先や受注先の確保」（36.7%）や「部品・原材料・商品等の調達先の変更」（34.6%）、「電力不足への対応」（31.5%）の回答が多くなっています。

【I. 自社業況判断、資金繰り、雇用人員について】

1 自社業況判断（自社業況 BSI：良い％－悪い％）

- 平成 23 年 4 月の自社業況 BSI は▲48.5 と、前回調査（平成 23 年 1-3 月期、震災前に実施）の▲24.5 から 24.0 ポイント低下しました。業種別では、製造業・非製造業いずれも低下したほか、規模別でも、全ての規模で低下しました。先行きについては、平成 23 年 6 月末では▲59.9 と、さらに低下する見通しとなっていますが、平成 23 年 9 月末では▲47.7 と上昇に転じる見通しです。
- 平成 23 年 4 月の自社業況を「悪い」と回答した企業は 54.0% となりました。その中で、自社業況が悪いと判断した理由として、80.8% の企業が「震災の影響」と回答しています。

※ BSI (Business Survey Index)：企業が感じる景気の強弱感を算式により求めた値です。例えば、自社業況 BSI は、自社業況が「良い」と回答した割合から「悪い」と回答した割合を減じた値です。

自社業況 BSI (業種別・規模別) の推移

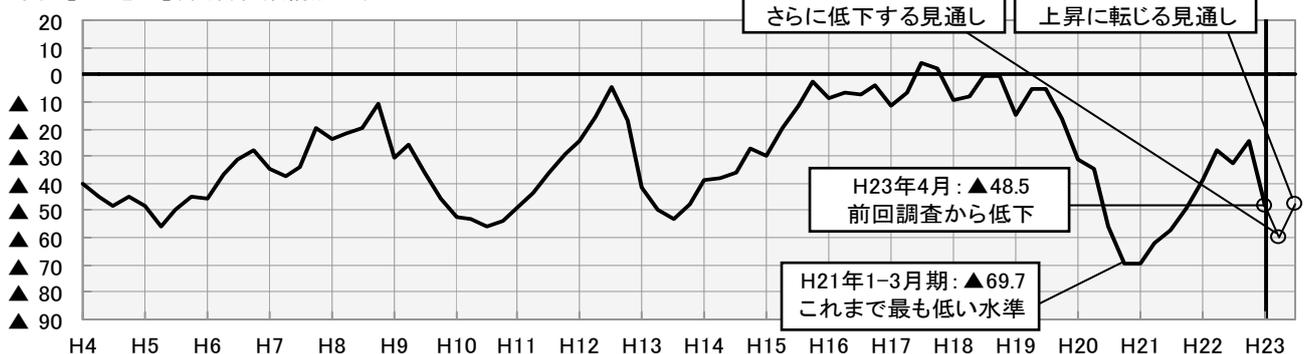
		H22 年 10-12 月期	H23 年 1-3 月期	H23 年 4 月	H23 年 6 月末	H23 年 9 月末
全産業		▲32.5	▲24.5	▲48.5	▲59.9	▲47.7
業種	製造業	▲28.1	▲20.6	▲40.8	▲55.6	▲39.9
	非製造業	▲36.1	▲27.7	▲54.7	▲63.2	▲53.7
規模	大企業	▲15.2	▲13.4	▲58.0	▲60.4	▲31.9
	中堅企業	▲34.1	▲28.6	▲51.1	▲65.1	▲55.8
	中小企業	▲33.9	▲25.4	▲47.4	▲59.8	▲48.6
	市外本社企業	▲40.0	▲21.6	▲42.8	▲48.8	▲41.4

(注) H23 年 6 月末時点、H23 年 9 月末時点は見通し。

自社業況 BSI の推移

(※) 目盛りは各年 4-6 月期（ただし、H23 年は 4 月）

「良い」－「悪い」、回答社数構成比、%



H23年4月の自社業況の回答割合

		良い	普通	悪い
全産業		5.5%	40.5%	54.0%
業種	製造業	8.1%	43.0%	48.9%
	非製造業	3.4%	38.5%	58.1%
規模	大企業	0.0%	42.0%	58.0%
	中堅企業	7.0%	34.9%	58.1%
	中小企業	5.9%	40.8%	53.3%
	市外本社企業	4.8%	47.6%	47.6%

自社業況が「悪い」と判断した理由で「震災の影響」と回答した企業の割合

		H23年4月
全産業		80.8%
業種	製造業	79.1%
	非製造業	82.0%
規模	大企業	96.6%
	中堅企業	84.0%
	中小企業	77.7%
	市外本社企業	80.0%

2 資金繰り (資金繰りBSI: 改善%-悪化%)

- 平成23年4月の資金繰りBSIは▲26.1と、前回調査(平成23年1-3月期、震災前に実施)の▲8.9から17.2ポイント低下し、資金繰りが悪化しました。先行きについては、平成23年6月末で▲27.6と、さらに低下する見通しです。

資金繰りBSI(業種別・規模別)の推移

		H22年10-12月期	H23年1-3月期	H23年4月	H23年6月末
全産業		▲13.1	▲8.9	▲26.1	▲27.6
業種	製造業	▲15.3	▲10.3	▲24.1	▲27.6
	非製造業	▲11.2	▲7.7	▲27.8	▲27.5
規模	大企業	0.0	8.7	▲20.4	▲12.2
	中堅企業	▲9.1	▲14.1	▲31.1	▲27.6
	中小企業	▲17.0	▲11.6	▲27.9	▲32.2
	市外本社企業	▲6.9	3.2	▲5.4	▲2.7

(注) H23年6月末は見通し。

3 雇用人員 (雇用人員BSI: 過大%-不足%)

- 平成23年4月の雇用人員BSIは14.4と、前回調査(平成23年1-3月期、震災前に実施)の▲2.6から17.0ポイント上昇し、企業の雇用過剰感が強まっています。先行きについては、平成23年6月末で14.1と、わずかながら低下する見通しです。

雇用人員BSI(業種別・規模別)の推移

		H22年10-12月期	H23年1-3月期	H23年4月	H23年6月末
全産業		6.2	▲2.6	14.4	14.1
業種	製造業	7.7	1.9	18.0	17.7
	非製造業	5.0	▲6.2	11.5	11.2
規模	大企業	11.2	8.7	20.0	18.0
	中堅企業	3.3	1.2	20.7	17.3
	中小企業	6.5	▲5.0	13.6	14.3
	市外本社企業	5.6	▲5.6	0.0	0.0

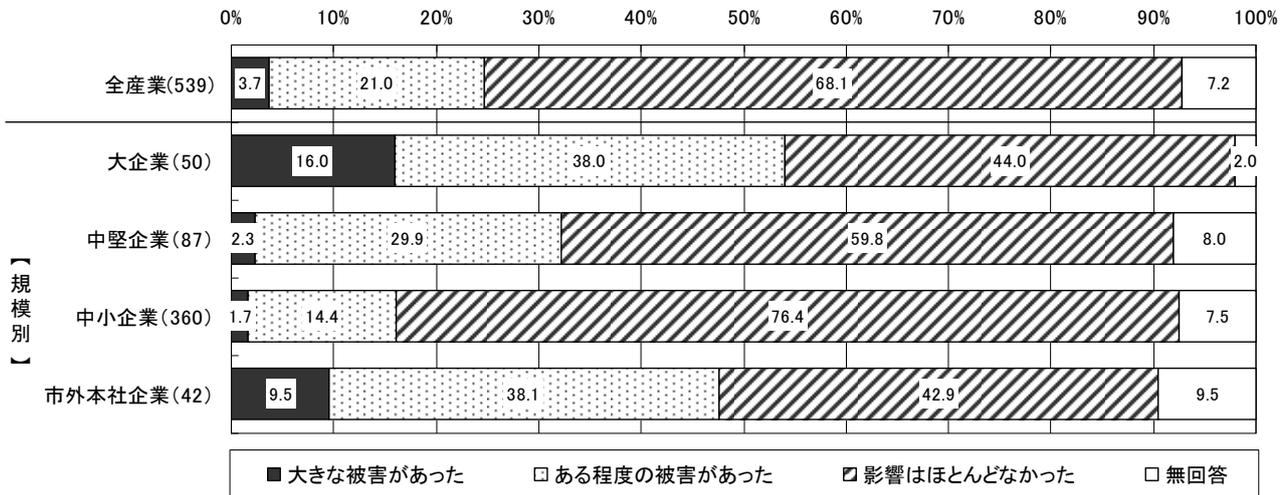
(注) H23年6月末は見通し。

【Ⅱ. 震災による事業活動への影響について】

4 今回の震災による直接的な被害状況について

- 今回の震災による市内企業の直接的な被害状況をみると、被害があった（「大きな被害があった」及び「ある程度の被害があった」）と回答した企業は 24.7%（「大きな被害があった」（3.7%）、「ある程度の被害があった」（21.0%））であるのに対し、「影響はほとんどなかった」は 68.1% となっています。
- 規模別にみると、被害があったと回答した企業は、大企業で 54.0%（「大きな被害があった」（16.0%）、「ある程度の被害があった」（38.0%））と半数以上が被害を受けています。一方、中堅企業や中小企業は半数以下にとどまっており、企業規模により直接的な被害の発生状況に差がみられます。

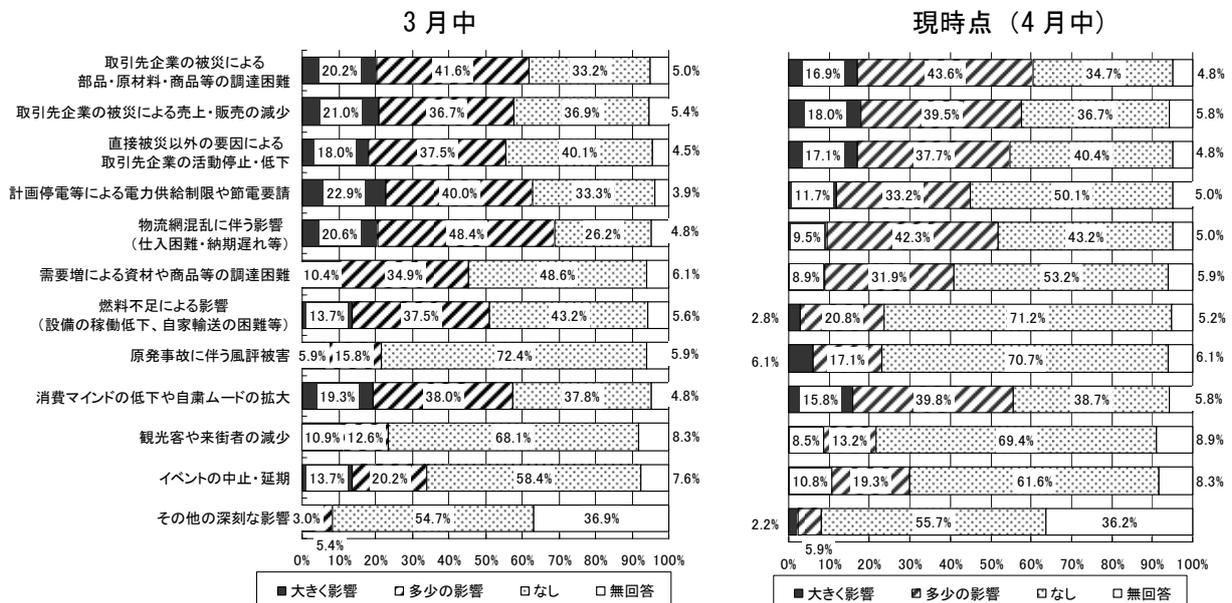
今回の震災による直接的な被害状況（規模別）



5 3月中および現時点での市内での事業活動に影響があった項目について

- 今回の震災に伴って、市内での事業活動に影響があった（「大きく影響」および「多少の影響」の合計、以下同様）と回答した企業の割合をみると、**3月中では「物流網混乱に伴う影響」が 69.0% と最も多く**、以下、「計画停電等による電力供給制限」（62.9%）、「取引先企業の被災による部品・原材料・商品等の調達困難」（61.8%）など全部で 6 項目について、半数以上の企業が影響があったと回答しています。
- 一方、**現時点（4月中）では、「取引先企業の被災による部品・原材料・商品等の調達困難」が 60.5% と最も多く**、以下、「取引先企業の被災による売上・販売の減少」（57.5%）、「消費マインドの低下や自粛ムードの拡大」（55.6%）など全部で 5 項目について、半数以上の企業が影響があったと回答しています。
- 今回の震災に伴って、市内での事業活動への影響について **3月中と現時点を比較すると、ほとんどの項目で 3月中よりも現時点の方が影響がある（「大きく影響」及び「多少の影響」）と回答した企業の割合が低くなっています。**そうした中、「原発事故に伴う風評被害」は 3月中よりも現時点の方が高くなっています。

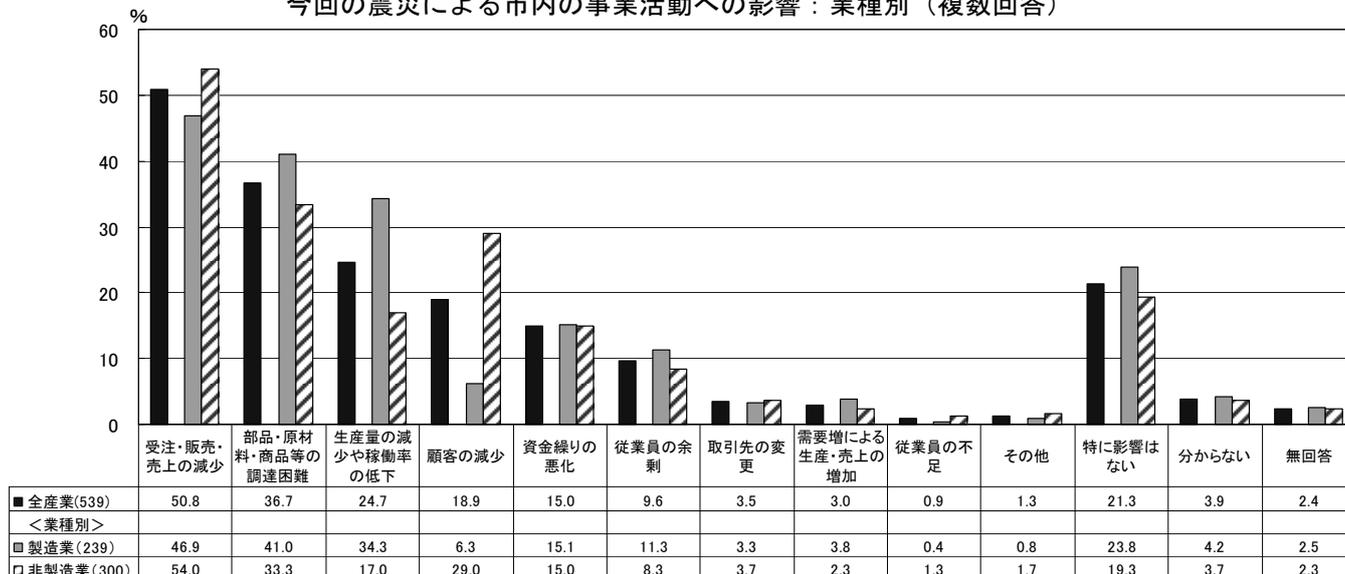
市内での事業活動に影響があった項目：全業種、全規模



6 今回の震災に伴う市内の事業活動への影響

- 今回の震災に伴う市内の事業活動への影響をみると、「受注・販売・売上の減少」が50.8%と最も多く、以下、「部品・原材料・商品等の調達困難」(36.7%)、「生産量の減少や稼働率の低下」(24.7%)、「顧客の減少」(18.9%)の順となっています。なお、「特に影響はない」は21.3%となっています。
- 業種別にみると、製造業、非製造業いずれも「受注・販売・売上の減少」、「部品・原材料・商品等の調達困難」の回答が多くなっています。なお、「生産量の減少や稼働率の低下」については、製造業が34.3%に対して非製造業が17.0%と製造業の回答が多く、「顧客の減少」については、製造業が6.3%に対して非製造業が29.0%と非製造業の回答が多くなっています。

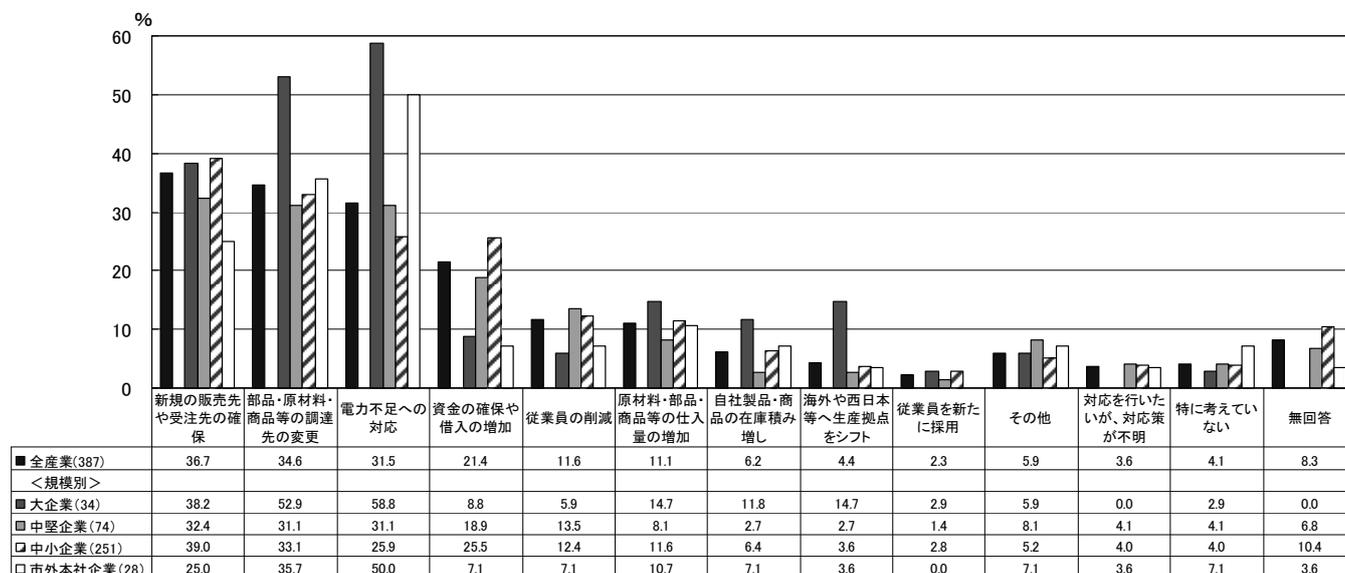
今回の震災による市内の事業活動への影響：業種別（複数回答）



7 市内の事業活動への影響に対して今後必要なこと

- 市内の事業活動への影響に対して今後必要なことをみると、「新規の販売先や受注先の確保」が36.7%と最も多く、以下、「部品・原材料・商品等の調達先の変更」(34.6%)、「電力不足への対応」(31.5%)、「資金の確保や借入の増加」(21.4%)の順となっています。なお、「対応を行いたい、対応策が不明」は3.6%にとどまっておき、多くの企業は何らかの対策の必要性を感じていることがうかがえます。
- 規模別にみると、いずれの規模でも「新規の販売先や受注先の確保」、「部品・原材料・商品等の調達先の変更」、「電力不足への対応」の回答が多くなっています。

市内の事業活動への影響に対して今後必要なこと：規模別（複数回答）



【Ⅲ. 電力使用制限の実施による市内の事業活動への影響について】

8 電力使用制限の実施による市内の事業活動への影響

- 電力使用制限の実施による市内の事業活動への影響についてみると、「特に影響はない」が9.1%、「現時点では分からない」が10.9%となっており、7割の企業は影響があると回答しています。
- 規模別にみると、「直接電力使用制限を受けることによる生産・販売量等の減少」や「使用制限による事業継続の困難」の自社が直接的に影響を受ける項目については、大企業の回答割合が中堅企業や中小企業に比べて高くなっています。それに対し、「取引先企業が制限を受けることによる稼働体制や納品時期の変更」や「取引先企業が制限を受けることによる受注減」など自社が間接的に影響を受ける項目については、中小企業の回答割合が大規模や中堅企業に比べて高くなっています。

電力使用制限の実施による市内の事業活動への影響：全業種、全規模（複数回答）

	項目	全規模 (539)				
		大企業 (50)	中堅企業 (87)	中小企業 (360)	市外本社企業 (42)	
【直接的な影響】	直接電力使用制限を受けることによる生産・販売量等の減少	32.5%	40.0%	37.9%	29.4%	38.1%
	使用制限による事業継続の困難	9.8%	28.0%	6.9%	6.9%	19.0%
	制限対策に伴うコスト増	20.2%	30.0%	16.1%	18.6%	31.0%
【間接的な影響】	取引先企業が制限を受けることによる受注減	34.3%	28.0%	29.9%	38.6%	14.3%
	取引先企業が制限を受けることによる稼働体制や納品時期の変更	34.5%	34.0%	32.2%	35.6%	31.0%
	仕入先企業が制限を受けることによる仕入調達困難	26.9%	20.0%	27.6%	27.5%	28.6%
	来店客・観光客の減少	16.0%	18.0%	26.4%	11.9%	26.2%
	その他	1.9%	2.0%	2.3%	1.1%	7.1%
	特に影響はない	9.1%	4.0%	8.0%	10.3%	7.1%
	現時点では分からない	10.9%	8.0%	9.2%	11.9%	9.5%
	無回答	10.2%	14.0%	8.0%	10.6%	7.1%

調査対象企業数：市内企業・市内に事業所を置く企業 936社 回答企業数 539社 回答率 57.6%

調査実施機関：横浜市経済局



平成 2 3 年度

事業概要

文化観光局

目 次

	ページ
◎ 平成23年度文化観光局 事業概要について	3
◎ 平成23年度文化観光局 予算総括表	5
◎ 事業別内訳	
I 魅力づくり推進事業	6
(1) 事業 (2款1項3目創造都市推進費)	
(2) 事業 (2款1項1目都市経営推進費)	
II 創造都市推進費 (2款1項3目)	7
1 文化芸術創造都市形成事業	
(1) ナショナルアートパーク構想推進事業	
(2) 創造界限形成事業	
(3) 地域再生まちづくり事業	
(4) アーツコミッション事業	
(5) 映像文化都市づくり推進事業	
(6) 横浜トリエンナーレ事業	
(7) 創造都市交流事業	
(8) 創造都市市民力継承事業	
(9) 魅力づくり推進事業【再掲】	
(10) 創造都市雇用対策事業	
2 戦略的事業誘致 (「IV 観光・コンベンション振興費」に記載)	
III 文化振興費 (3款1項5目)	9
(1) 横浜芸術アクション事業	
(2) クラシック・ヨコハマ推進事業	
(3) 文化芸術による地域づくり事業	
(4) 芸術文化教育プログラム推進事業	
(5) 芸術文化支援事業	
(6) 文化施設運営事業	
(7) 文化施設整備事業	
(8) 横浜市芸術文化振興財団補助金	
(9) その他の文化振興事業	

IV 観光・コンベンション振興費（8款1項9目）・・・・・・・・ 11

1 観光資源の魅力アップと活用事業

- (1) 国内誘客事業
- (2) 横浜観光プロモーション認定事業
- (3) ニューツーリズム振興事業
- (4) フィルムコミッション事業
- (5) 横浜おもてなし事業
- (6) 三溪園支援事業
- (7) ヨコハマグッズ販路強化事業
- (8) その他観光振興事業

2 海外集客プロモーション事業

- (1) ビジットジャパン地方連携事業等を活用したプロモーション
- (2) 中国向けプロモーション事業
- (3) 航空会社とのタイアッププロモーション
- (4) その他

3 MICE誘致・開催支援事業

- (1) コンベンション誘致・開催支援事業
- (2) MICE機能強化等事業
- (3) 集客イベント支援事業

4 戦略的事業誘致

- (1) 大型国際コンベンション誘致事業
- (2) アフリカン・フェスタ実施事業

5 減債基金積立金

文化観光局の事業概要

局の理念

文化のかおる活力ある都市横浜、人が集い交流するにぎわいのある都市横浜の実現

局のスローガン

発信しよう 横浜の魅力！ ～もっと「横浜の魅力」を知ってもらおう！～

組織の方向性

◆横浜魅力づくり室（新設）

横断的・総合的に事業の調整を図るとともに、より効果的なシティプロモーションを実施するための企画調整・発信を行う

◆創造都市推進部

創造都市事業を、ソフトとハードの両面から展開することにより、街のさらなる活性化につなげる

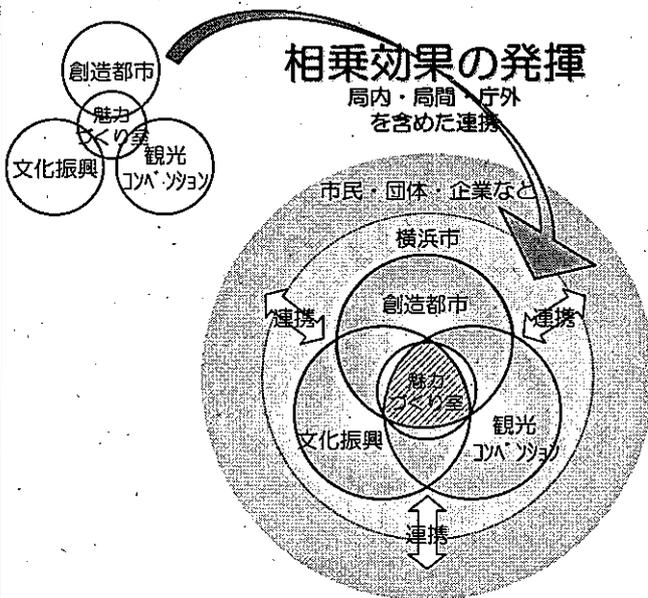
◆文化振興部

市民の文化芸術活動を支援するとともに、質の高い芸術事業を行い、横浜の魅力づくりにつなげます

◆観光コンベンション振興部

観光コンベンション部門について、戦略的コンベンション等の誘致とあわせ、都市としての魅力向上を図りつつ、国内外からの集客増を実現する

局の運営について



局のスローガン

発信しよう 横浜の魅力！
もっと「横浜の魅力」を知ってもらおう！

越えよう
組織の枠！
柔軟な発想と行動
で、仕事を楽しく、
やりやすく！

持とう
おもてなしの
こころ！
誰もが横浜を好き
になるように！

増やそう
賑わい！
横浜から日本を
元気に！

局再編の背景

- ◆観光・コンベンション・創造都市を新たな成長戦略として位置づけ、本市の強みを活かした重点施策を展開
- ◆文化政策の一体的な推進
- ◆コンベンション誘致施策の一体的な推進

文化観光局の新設

本市の強みである文化・観光・MICE・創造都市の実績を集約することで、横浜の魅力向上を図り、内外からの集客増を実現

OPEN
YOKOHAMA

平成23年度 局の取組

具体的事業を通じた相乗効果発揮の実践

- ◆局一丸となって相乗効果を発揮し、イベント等を通じて横浜の魅力を発信しながら、集客を図ります
例) ヨコハマトリエナーレ2011・INVITATION to OPEN YOKOHAMA2011
横浜芸術アクション事業
映画「コクリコ坂から」(スタジオジブリ制作)公開と連動したプロモーションの展開
- ◆創造都市、文化、観光コンベンションの融合により、個々の事業の一層の進化を図ります
例) 文化施設の活用等によるアフターコンベンションの充実
地域の文化・観光資源を活用した情報発信力の強化

重点推進事業

◆横浜魅力づくり室

- ・横浜魅力づくり推進事業 16,000千円 (新規)
文化、観光等による魅力づくりに関する新規施策やシティプロモーション等の企画調整を総合的に推進

◆創造都市推進部

- ・横浜トリエンナーレ事業 490,020千円
我が国を代表する国際的な現代美術展である「ヨコハマトリエナーレ2011」を平成23年8月6日から11月6日まで、横浜美術館・日本郵船海岸通倉庫を主会場として開催
- ・創造都市市民力継承事業 73,000千円
横浜都心の多彩な魅力資源をつなぐキャンペーン「INVITATION to OPEN YOKOHAMA2011」の開催、創造都市の郊外展開等による地域課題解決とコミュニティ形成の推進等
- ・地域再生まちづくり事業 113,722千円
違法な小規模飲食店が多数立地していた初黄・日ノ出町地区において、引き続き、地元・警察・行政等が一体となった、文化芸術の力を生かした都市の再生を推進

◆文化振興部

- ・横浜芸術アクション事業 20,000千円 (新規)
横浜から広く文化芸術を発信するとともに、専門文化施設のポテンシャルを最大限発揮し、質の高い演奏会等を開催するとともに、市民と芸術をつなげる事業を実施
(平成24年度の本格実施に向けて、平成23年度はプレ事業を実施)
- ・芸術文化教育プログラム推進事業 17,500千円
次世代を担う子どもたちの市民力、創造力を育成するため、学校においてアーティストによる芸術文化の体験ができる教育プログラムを、NPO、企業等とのネットワークにより実施
- ・文化芸術による地域づくり事業 5,100千円
市民・NPOが主体となり、人と人、地域と地域のつながりやネットワークを広げ、コミュニティの活性化を図る文化芸術活動を支援

◆観光コンベンション振興部

- ・MICE誘致・開催支援事業 1,395,089千円
羽田空港国際化やAPEC等の開催実績をいかした、国際コンベンションの誘致・開催支援、市内の大学や研究機関で開催される国際コンベンションへの支援や国内会議の国際化、ウェルカムプロジェクト等の取り組みの実施
- ・海外集客プロモーション事業 97,886千円
羽田空港に国際定期便が就航するアジア地域をターゲットとして、横浜の観光地としての知名度向上やツアー造成につながるようなプロモーションの実施
- ・観光資源の魅力アップと活用事業 464,661千円
横浜を訪れる多くの来街者の滞在環境を魅力あるものとするための、観光案内所の運営・人材育成支援、名勝三溪園の施設整備補助、民間事業者との連携により横浜の強みを観光資源として発掘・活用する「ニューツーリズム振興」の推進等



OPEN
YOKOHAMA

◎ 平成23年度 文化観光局予算総括表

(単位：千円)

科 目	23年度予算額	22年度予算額	差引増△減	前年比 %	増減の主な理由	
一 般 会 計	8,116,832	8,434,890	△318,058	△3.8		
主 な 内 訳	2款1項1目 都市経営推進費	3,150	-	3,150	-	・横浜シティプロモーション広告費
	2款1項3目 創造都市推進費	1,283,286	1,108,480	174,806	15.8	・横浜トリエンナーレの開催 439,020千円増 ・APEC横浜開催の終了 △252,741千円
	3款1項5目 文化振興費	3,675,017	4,030,006	△354,989	△8.8	・文化施設運営費 201,877千円増 ・横浜芸術アクション事業 20,000千円増 ・文化施設整備事業 △472,948千円
	8款1項9目 観光・コンベン ション振興費	2,198,952	2,365,204	△166,252	△7.0	・国内誘客事業 1,514千円増 ・ビジットジャパン地方連携事業等を活用した プロモーション 8,500千円増 ・集客イベント支援事業 5,000千円増 ・三溪園支援事業 △62,315千円 ・MICE機能強化等事業 △62,165千円

I	魅力づくり 推進事業	本年度	前年度	差引	本年度の財源			
					国	県	その他	一般財源
	2款1項1目 都市経営推進費 3,150千円 2款1項3目 創造都市推進費16,000千円	千円 19,150	千円 -	千円 19,150	千円 -	千円 -	千円 -	千円 19,150

横浜魅力づくり室

(1) 魅力づくり推進事業事業 【新規】 16,000千円 (前年度-)

文化、観光等による魅力づくりに関する新規施策やシティプロモーション等の企画調整を総合的に推進します。

(2) 横浜シティプロモーション広告経費 3,150千円 (前年度3,150千円)

「京浜急行電鉄羽田空港国際線ターミナル駅を”横浜のゲートウェイ”に！」のコンセプトに基づき、京浜急行電鉄とのコラボレーションにより、駅構内に設置された46インチ9面マルチビジョンでの映像放映等、同駅構内でのシティプロモーションを実施します。

※旧都市経営局で所管していた羽田空港国際化関連施策推進事業の一部

II	(2款1項3目) 創造都市推進費	本年度 千円	前年度 千円	差引 千円	本年度の財源			
					国 千円	県 千円	その他 千円	一般財源 千円
		1,283,286	1,108,480	174,806	-	117,197	15,257	1,150,832

創造都市推進部

1 文化芸術創造都市形成事業 1,263,286千円 (前年度1,087,080千円)

文化芸術の創造性を生かして、都市の活性化を図る創造都市の形成を推進します。
 そのため、開港都市としての歴史や魅力的な資源を活かし、まちの魅力を高め、都市の活性化を図るナショナルアートパーク構想推進事業や文化芸術による地域の賑わいづくりを目指す創造界隈事業など、文化芸術、創造産業支援、まちづくりを一体的に進めます。
 特に平成23年度は、第4回となる現代美術の国際展「ヨコハマトリエンナーレ2011」を開催し、東アジアの文化創造拠点として国内外への発信力を高めます。

(主な事業)

(1) ナショナルアートパーク構想推進事業 75,700千円 (前年度84,500千円)

ナショナルアートパーク構想のもと、都心臨海部の魅力づくりを進めるため、象の鼻パーク内の「象の鼻テラス(多目的レストハウス)」を文化観光交流拠点として活用します。また、企業、各種団体及び行政で構成する創造都市横浜推進協議会を運営します。

(2) 創造界隈形成事業 228,769千円 (前年度252,212千円)

都心部の歴史的建造物や倉庫、空きオフィス等を創造活動の場として活用することにより、アーティスト・クリエイターを定着させ、創作・発表・滞在する創造界隈の形成を進め、地域の活性化につなげます。

(3) 地域再生まちづくり事業 113,722千円 (前年度120,721千円)

違法な小規模飲食店が多数立地していた初黄・日ノ出町地区において、引き続き、地元・警察・行政等が一体となって、文化芸術の力を生かした都市の再生を進めます。そのため、新たに京浜急行高架下の有効活用を図り、地区内の空き店舗と併せてアーティスト・クリエイターの創造活動の場に活用します。更に、ヨコハマトリエンナーレ2011と併せて黄金町バザールを実施し、地区全体のまちづくりを促進します。

(4) アーツコミッション事業 99,965千円 (前年度107,501千円)

アーティスト・クリエイターの集積・活動支援を図るため、ワンストップ相談窓口を置き、創造活動に関する相談・支援・情報提供やマッチング、助成などを総合的に行うとともに、区内・区外地区等の空きビル等の転用による拠点整備の推進等を図ります。

(5) 映像文化都市づくり推進事業 33,740千円 (前年度55,832千円)

横浜から魅力ある映像文化の発信や人材育成を図るため、大学等と連携するとともに、都心臨海部で行われる特色ある映画祭の開催を支援します。

(6) 横浜トリエンナーレ事業 **490,020千円** (前年度51,000千円)

我が国を代表する国際的な現代美術展である「ヨコハマトリエンナーレ2011」を、平成23年8月6日から11月6日まで、横浜美術館・日本郵船海岸通倉庫を主会場として開催し、創造都市・横浜の取組を国内外に発信します。

(7) 創造都市交流事業 **8,700千円** (前年度15,200千円)

これまでに開催した国際会議等で形成された創造都市に関するネットワーク等を生かし、海外の芸術拠点等との人材交流、アーティストの滞在制作支援等を行います。

(8) 創造都市市民力継承事業 **73,000千円** (前年度83,200千円)

開港150周年記念事業やこれまでの取組を通じて培った市民や地域の力を生かし、創造都市の取組を一層推進します。

横浜都心の多彩な魅力資源をつなぐキャンペーン「INVITATION to OPEN YOKOHAMA 2011(仮称)」の開催、横浜トリエンナーレサポーターの自主的活動支援、マザーポートエリアにおける市民によるイベントの支援、ストリートミュージシャンの演奏の場の提供などを通じて、市民活動の盛り上げや街の賑わいづくりを図ります。また、創造都市の郊外展開を図り、地域課題解決とコミュニティの形成を目指します。

(9) 魅力づくり推進事業【再掲】【新規】 **16,000千円** (前年度-)

(2款1項3目創造都市推進費)

※ 詳細は6ページに記載しています。

(10) 創造都市雇用対策事業【新規】 **117,197千円** (前年度-)

緊急雇用創出事業等の一環として、アーティストと障害者施設との協働により商品開発を行う事業のほか、横浜トリエンナーレのPR業務、オープンヨコハマにおける来場者の会場間輸送業務やインフォメーション等来場者の誘導案内輸送業務などに就業の機会を提供します。

2 戦略的事業誘致 **20,000千円** (前年度21,400千円)

※ 詳細は「IV. 観光・コンベンション振興費」(13ページ)に記載しています。

III	(3款1項5目) 文化振興費	本年度 千円	前年度 千円	差引 千円	本年度の財源			
					国 千円	県 千円	その他 千円	一般財源 千円
		3,675,017	4,030,006	△354,989	-	-	293,043	3,381,974

文化振興部

横浜みなとみらいホールや横浜美術館などの専門文化施設で芸術フェスティバル等を開催するなど、横浜から広く文化芸術を発信します。

また、若手音楽家の発掘・育成を目的とした音楽祭の開催、身近な地域でのアート活動の推進、次代を担う子どもたちの創造性を育む事業の推進、文化施設の運営・整備など、市域全体で文化芸術を推進します。

(1) 横浜芸術アクション事業【新規】 20,000千円 (前年度-)

専門文化施設のポテンシャルを最大限発揮し、質の高い演奏会等を開催するとともに、市民と芸術をつなげる事業を実施。(平成24年度の本格実施に向けて、平成23年度はプレ事業を実施。)

(2) クラシック・ヨコハマ推進事業 11,000千円 (前年度11,000千円)

ア クラシック・ヨコハマ

国内最高峰の学生音楽コンクールである全日本学生音楽コンクール全国大会を中心に、地域でのサロンコンサート等による音楽祭を開催します。

イ 国際音楽セミナー

世界的演奏家による国際音楽セミナーを開催し、若手演奏家を発掘、育成するための環境整備を行います。

(3) 文化芸術による地域づくり事業 5,100千円 (前年度6,000千円)

市民・NPOが主体となり、人と人、地域と地域のつながりやネットワークを広げ、コミュニティの活性化を図る文化芸術活動を支援します。

(4) 芸術文化教育プログラム推進事業 17,500千円 (前年度17,500千円)

次世代を担う子どもたちの市民力、創造力を育成するため、学校において、アーティストによる芸術文化の体験ができる教育プログラムを、NPO、企業等とのネットワークにより実施します。

(5) 芸術文化支援事業 37,450千円 (前年度40,150千円)

美術・音楽等の芸術文化活動に対する様々な支援を行います。

(6) 文化施設運営事業 **2,308,911千円** (前年度2,107,034千円)
横浜美術館、横浜みなとみらいホール等の文化施設の運営等を行います。

ア	横浜美術館運営費	529,375千円
イ	横浜みなとみらいホール運営費	437,010千円
ウ	横浜能楽堂運営費	168,422千円
エ	横浜にぎわい座運営費	190,901千円
オ	関内ホール等文化施設運営費(11施設)	664,534千円
カ	市民利用施設予約システム運営費等	318,669千円

(7) 文化施設整備事業 **1,008,643千円** (前年度1,481,591千円)
市民の主体的、創造的な文化活動の身近な拠点となる文化施設を各区の文化特性等に応じて整備します。

ア	鶴見区民文化センター(土地費相当額)	1,004,293千円
イ	緑区民文化センター(調整費)	100千円
ウ	戸塚区民文化センター(PFIモビリティ費)	4,250千円

(8) 横浜市芸術文化振興財団補助金 **212,021千円** (前年度235,288千円)
公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団の運営及び事業への補助を行います。

(9) その他の文化振興事業 **54,392千円** (前年度131,443千円)
横浜文化賞の贈呈、美術資料収集、文化施設の長期維持管理、次期指定管理者の選定等を行います。

IV	(8款1項9目) 観光・コンベンション振興費	本年度 千円	前年度 千円	差引 千円	本年度の財源			
					国 千円	県 千円	その他 千円	一般財源 千円
	※	2,198,952	2,365,204	△166,252	—	19,850	868,413	1,310,689

観光・コンベンション振興部

※ 再掲分、2款1項3目創造都市推進費 20,000千円は含まず

1 観光資源の魅力アップと活用事業

464,661千円

(前年度582,573千円)

横浜に訪れる多くの来街者の滞在環境を魅力あるものとするため、観光案内所の運営や人材育成支援、名勝三溪園の施設整備補助や他所管施設の維持・管理などを行います。また、民間事業者との連携により、横浜の強みを観光資源として発掘・活用する「ニューツーリズム振興」を進めるとともに、修学旅行誘致の強化に取り組んでいきます。

(1) 国内誘客事業

62,098千円

(前年度60,584千円)

- ア 修学旅行誘致に向けた、重点エリアセールスやバス借上助成の創設
- イ 横浜旅行の商品化に向けた販売促進とPR
- ウ インターネットによる横浜情報の発信 等

(2) 横浜観光プロモーション認定事業

21,000千円

(前年度21,000千円)

民間事業者が実施する横浜の集客力を高める事業を認定、支援

(3) ニューツーリズム振興事業【新規】

6,000千円

(前年度-)

「産業観光」をはじめ、新たな視点からの観光資源の発掘・活用を推進

(4) フィルムコミッション事業

16,000千円

(前年度20,000千円)

様々な媒体で取り上げられることによるシティーセールスの推進

(5) 横浜おもてなし事業

100,229千円

(前年度107,457千円)

- ア 市内4ヶ所の観光案内所及び羽田空港6県市観光情報センターの運営、民間観光案内所の支援
- イ 「連泊して楽しめる横浜」の実現 等
(事業主体・補助金交付先：(財)横浜観光コンベンション・ビューロー、(社)YOKOHAMA GOODS 001)

(6) 三溪園支援事業

165,047千円

(前年度227,362千円)

- ア 重要文化財建造物や庭園築造物等の保存修理事業
- イ 施設整備にかかる資金借入に伴う元利返済金に対する補助
(事業主体・補助金交付先：(財)三溪園保勝会)

(7) ヨコハマグッズ販路強化事業

19,850千円

(前年度19,931千円)

ヨコハマグッズ「横濱001」のPR及び販路強化

(8) その他観光振興事業 74,437千円 (前年度126,239千円)

ア 横浜人形の家機能拡充・修繕

イ 観光入込客数調査など観光施策に関する調査等

(事業主体・補助金交付先：(財)横浜観光コンベンション・ビューロー)

2 海外集客プロモーション事業 97,886千円 (前年度45,592千円)

羽田空港に国際定期便が就航するアジア地域をターゲットとして、横浜の観光地としての知名度向上やツアー造成に繋がるようなプロモーションの実施により、横浜への集客増を図ります。

(1) ビジットジャパン地方連携事業等を活用したプロモーション 12,500千円 (前年度4,000千円)

観光庁、近隣自治体、交通事業者等と連携し、アジア6地域を対象とした誘客事業

(2) 中国向けプロモーション事業 31,000千円 (前年度25,000千円)

観光セミナー開催、横浜友好観光大使を起用したメディアプロモーション

(補助金交付先：横浜企業経営支援財団上海事務所)

(3) 航空会社とのタイアッププロモーション【新規】 9,500千円 (前年度-)

航空会社とのタイアップによる横浜観光PR

(4) その他 44,886千円 (前年度16,592千円)

横浜観光コンベンション・ビューローへの支援等

3 MICE誘致・開催支援事業 1,395,089千円 (前年度1,447,588千円)

羽田空港国際化やAPEC等の開催実績をいかし、国際コンベンションの誘致・開催支援を行うほか、市内の大学や研究機関で開催される国際コンベンションへの支援や国内会議の国際化、ウェルカムプロジェクトなどの取組を行います。

※MICE (マイス) とは、Meeting (企業等の会議)、Incentive Travel (企業等の行う報奨・研修旅行)、Convention (国際機関・団体・学会等が主催する総会、学術会議等)、Event/Exhibition (イベント・展示会・見本市) の頭文字をとった言葉。

(1) コンベンション誘致・開催支援事業 **106,152千円** (前年度101,486千円)

- ア 市内の大学や研究機関で開催される国際コンベンションへの支援【新規】
- イ 国内会議の国際化【新規】
- ウ ウェルカムプロジェクト【新規】
- エ アフターコンベンションの促進等
(事業主体・補助金交付先：(財)横浜観光コンベンション・ビューロー、
コンベンション主催者)

(2) MICE機能強化等事業 **1,242,137千円** (前年度1,304,302千円)

- ア MICE機能強化のための調査検討【新規】
- イ 横浜MICEオープンカレッジ(仮称)の開校【新規】
- ウ パシフィコ横浜 国際交流ゾーン用地取得費
(事業主体・補助金交付先：(財)横浜観光コンベンション・ビューロー)

(3) 集客イベント支援事業 **46,800千円** (前年度41,800千円)

- 春の大道芸、ザよこはまパレード、横浜開港祭、ワールドフェスタ・ヨコハマ、
新横浜パフォーマンス、ディワリ・イン・ヨコハマ、フォト・ヨコハマ等
(事業主体・補助金交付先：(財)横浜観光コンベンション・ビューロー、
イベント主催団体)

4 戦略的事業誘致【再掲】 **20,000千円** (前年度21,400千円)

(2款1項3目創造都市推進費)

これまで第4回アフリカ開発会議やAPEC首脳会議等の誘致に成功し、開催支援を行ってきた実績を生かし、引き続き大型国際コンベンションを誘致し、MICEの拠点都市として、国際的な地位の確立を図ります。

また、第4回アフリカ開発会議(平成20年5月)を機に横浜に誘致した「アフリカン・フェスタ」を平成23年度も開催します。

(1) 大型国際コンベンション誘致事業 **9,170千円** (前年度10,000千円)

APEC横浜開催等の実績を生かし、大型国際コンベンション誘致に関する調査や資料作成等を行うほか、必要に応じて、市内関係団体等と連携した誘致活動を進めます。

(2) アフリカン・フェスタ実施事業 **10,830千円** (前年度11,400千円)

第4回アフリカ開発会議をきっかけとしたアフリカと横浜のつながりを一過性のものせず、アフリカへの理解と関心を深めるための我が国最大のアフリカの祭典「アフリカン・フェスタ」を誘致し、外務省との共催により開催します。

5 減債基金積立金 **241,316千円** (前年度236,713千円)

株式会社横浜国際平和会議場貸付金の利子償還額を減債基金に積み立てます。

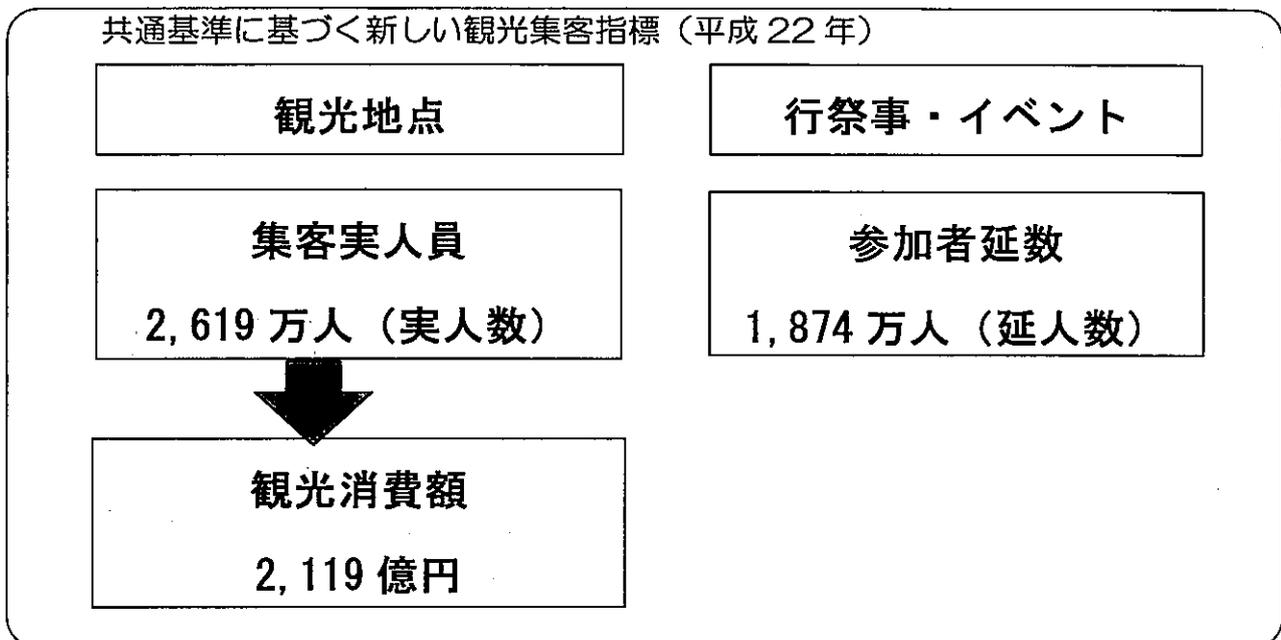


国の共通基準に準じた新たな観光集客指標

平成 22 年分（1 月から 12 月まで）がまとまりました

集客実人員は 2,619 万人、観光消費額は 2,119 億円

これまで横浜市では、観光施設や宿泊施設の利用者及び各種イベント参加者数の合計を「観光入込客数」（延数）として公表してきましたが、平成 22 年分から、観光庁が定めた「共通基準」に準じ、集客実人員と観光消費額を算出し、公表していくこととしました。



平成 22 年 1 月から 12 月の間に横浜市内の宿泊施設や観光施設等を利用された延べ数を、平均立ち寄り箇所数で除して算出した集客実人員は、**2,619 万人**となりました。

また、この集客実人員に平均消費単価を乗じた観光消費額は**2,119 億円**となります。

区分	集客実人員		増減	増減率
	22 年	21 年		
宿泊	371 万人	377 万人	△6 万人	△1.6%
日帰り	2,248 万人	2,316 万人	△68 万人	△2.9%
合計	2,619 万人	2,693 万人	△74 万人	△2.7%

区分	観光消費額		増減	増減率
	22 年	21 年		
宿泊	1,004 億円	1,022 億円	△18 億円	△1.8%
日帰り	1,115 億円	1,149 億円	△34 億円	△2.9%
合計	2,119 億円	2,171 億円	△52 億円	△2.4%

集客実人員・観光消費額算出方法

○集客実人員（宿泊）の算出方法

宿泊施設利用者延べ数 (※1) 482 万人	=	集客実人員 (宿泊) 371 万人
平均宿泊数 (※2) 1.3 泊		

○集客実人員（日帰り）の算出方法

観光地点立ち寄り延べ数 (※3)	-	集客実人員 (宿泊) 371 万人	×	宿泊客観光地点平均立ち寄り箇所数 (※4) 2.9 箇所	=	集客実人員 (日帰り) 2,248 万人
		日帰り客観光地点平均立ち寄り箇所数 (※5) 1.8 箇所				

○観光消費額の算出方法

集客実人員 (宿泊) 371 万人	×	平均消費額 (宿泊) (※6) 27,079 円	=	観光消費額 (宿泊) 1,004 億円
集客実人員 (日帰り) 2,248 万人	×	平均消費額 (日帰り) (※7) 4,961 円	=	観光消費額 (日帰り) 1,115 億円
観光消費額 (宿泊) 1,004 億円	+	観光消費額 (日帰り) 1,115 億円	=	観光消費額 2,119 億円

(※1) 市内宿泊施設 (ホテル・旅館 97 施設)

(※2) 平成 21 年度横浜市観光動態・消費動向調査

(※3) 市内観光地点 (観光施設・観光交通機関 109 施設) 及び、平成 21 年度横浜市観光動態・消費動向調査により求めた補正地点 (3 地点)

※観光入込客統計に関する共通基準 (観光庁) に基づき、以下の条件のいずれかに該当する 17 施設は延べ数合計から除外しています。

① 日常利用が多い施設 (月 1 回以上の頻度で訪問する人数の割合が半分以上)

② 観光入込客数が年間 1 万人未満の施設

(※4~7) 平成 21 年度横浜市観光動態・消費動向調査

行祭事・イベント関連集客人員（平成 22 年 延人数）

共通基準に定められた観光地点等の分類に基づき、人数を集計しているイベント(26 件)、文化施設・スポーツ施設等の集客人員(18 施設)を合計した平成 22 年(1~12 月)の行祭事・イベント関連の集客人員(延べ人数)は **1,875 万人** となりました。

区分	対象数	内容	観光入込客数
観光イベント	26	アートリンク in 赤レンガ倉庫 春節 国際フィッシングショー ジャパンインターナショナルボートショー フラワーガーデン in 赤レンガ倉庫 大道芸イベント 国際仮装行列(ザよこはまパレード) 横浜国際マリンエンターテイメントショー 横濱ドラゴンボートレース GREEN ROOMFESTIVAL 横浜開港祭 横浜開港記念バザー 横浜フランス月間 ジャパンヒストリックカー・ツアー アロハ・ヨコハマ アレグリア・デ・メヒコ 横浜セントラルタウンフェスティバル 横浜スパークリングトワイライト 神奈川新聞花火大会 鶴見区花火大会 金沢区花火大会 ワールドフェスタ・ヨコハマ ディワリ・イン・ヨコハマ オクトーバー・フェスト 新横浜パフォーマンス 開港キャンドルカフェ (開催時期順)	823 万人
コンサート・スポーツ観戦、コンベンション・国際会議等	18	コンベンション施設、ホール、スポーツ施設	1,051 万人
合 計	44		1,874 万人

(参考) 平成 22 年 横浜市観光入込客数 (延数) について

新しい観光集客指標である「集客実人員」の算出には、観光入込客数調査により得られた数値が基礎となることから、参考として概要を掲載します。

<調査概要>

観光入込客数：人数を集計している観光施設・イベント、宿泊施設等の入館者数等の合計(延数)。

○対象期間 平成 22 年 1 月 1 日から 12 月 31 日まで

○調査方法 各施設等への回答票の郵送

○調査対象 232 か所

区分	対象数	内容
観光施設	93	テーマパーク、遊園地、展望施設、動物園、博物館、美術館等 (商業施設は含みません)
観光交通機関	16	市内観光バス、横浜港観光船等
観光イベント	26	アートリンク in 赤レンガ倉庫、春節、国際フィッシングショー、 ジャパンインターナショナルボートショー、 フラワーガーデン in 赤レンガ倉庫、大道芸イベント、 国際仮装行列 (ザよこはまパレード)、 横浜国際マリンエンターテイメントショー、横浜ドラゴンボートレース、 GREEN ROOMFESTIVAL、横浜開港祭、横浜開港記念バザー、横浜フランス月 間、ジャパンヒストリックカー・ツアー、アロハ・ヨコハマ、 アレグリア・デ・メヒコ、横浜セントラルタウンフェスティバル、 横浜スパークリングトワイライト、神奈川新聞花火大会、鶴見区花火大会、 金沢区花火大会、ワールドフェスタ・ヨコハマ、ディワリ・イン・ヨコハ マ、 オクトーバー・フェスト、新横浜パフォーマンス、開港キャンドルカフェ (開催時期順)
宿泊施設	97	ホテル、旅館
合計	232	

<観光入込客数内訳 (詳細) >

(単位：人)

区分	平成 22 年	平成 21 年	増減	増減率
観光施設等延数	37,144,953	38,850,798	△1,705,845	△4.4%
観光施設	27,150,727	28,174,898	△1,024,171	△3.6%
鶴見周辺	919,086	949,770	△30,684	△3.2%
みなとみらい・桜木町	10,097,560	9,768,715	328,845	3.4%
山下・関内・伊勢佐木町	3,457,949	3,921,442	△463,493	△11.8%
山手・本牧・根岸	1,839,598	1,856,637	△17,039	△0.9%
磯子・金沢	6,217,019	6,669,846	△452,827	△6.8%
その他	4,619,515	5,008,488	△388,973	△7.8%
観光交通機関 (観光船等)	1,760,918	2,032,909	△271,991	△13.4%
観光イベント	8,233,308	8,642,991	△409,683	△4.7%
宿泊施設延数	4,820,450	4,907,486	△87,036	△1.8%
鶴見周辺	230,700	253,253	△22,553	△8.9%
みなとみらい・桜木町	1,339,806	1,402,534	△62,728	△4.5%
山下・関内・伊勢佐木町	1,635,794	1,566,039	69,755	4.5%
山手・本牧・根岸	12,611	13,750	△1,139	△8.3%
磯子・金沢	111,416	103,442	7,974	7.7%
その他	1,490,123	1,568,468	△78,345	△5.0%
合計	41,965,403	43,758,284	△1,792,881	△4.1%
(開港 150 周年に伴う集客効果)	0	10,522,657	△10,522,657	全減
開港 150 周年に伴う集客効果を含めた合計	41,965,403	54,280,941	△12,315,538	△22.7%

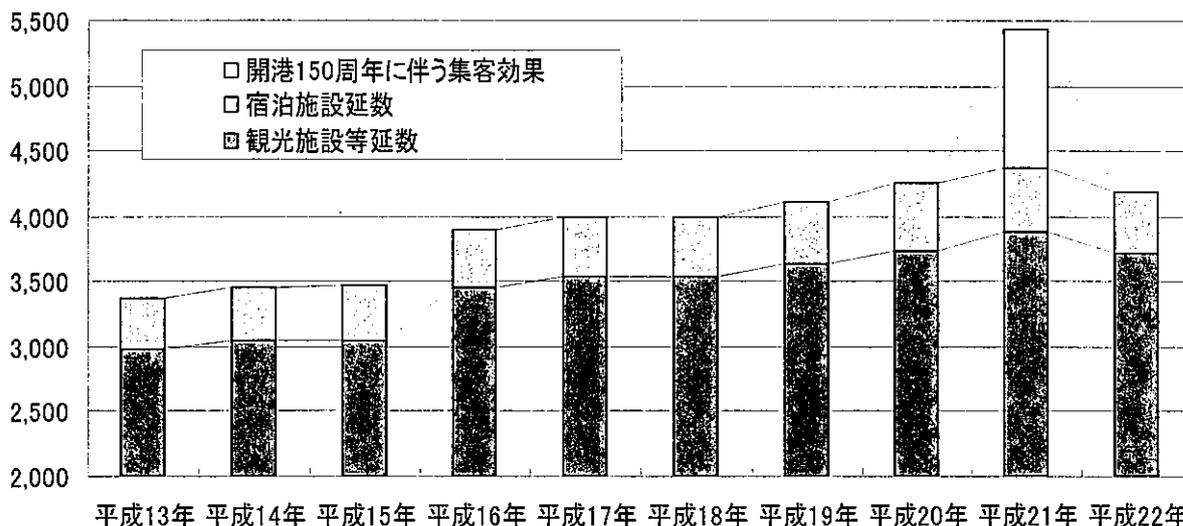
<観光入込客数（延数）推移（過去10年）>

（単位：人）

	合計	観光施設等延数	宿泊施設延数	対前年増△減（率）
平成22年	41,965,403	37,144,953	4,820,450	△1,792,881（△4.1%）
平成21年	※43,758,284	38,850,798	4,907,486	1,226,114（2.9%）
平成20年	42,532,170	37,398,138	5,134,032	1,460,582（3.6%）
平成19年	41,071,588	36,385,798	4,685,790	1,115,597（2.8%）
平成18年	39,955,991	35,385,318	4,570,673	16,939（0.0%）
平成17年	39,939,052	35,391,984	4,547,068	1,031,698（2.7%）
平成16年	38,907,354	34,535,373	4,371,981	4,242,523（12.2%）
平成15年	34,664,831	30,529,580	4,135,251	128,550（0.4%）
平成14年	34,536,281	30,412,232	4,124,049	752,672（2.2%）
平成13年	33,783,609	29,836,271	3,947,338	△41,359（△0.1%）

※ 調査開始時期：昭和44年（1969年）

※ 平成21年の合計は、開港150周年に伴う集客効果分10,522,657人を除いた値です。



<主な増減要因等>

【宿泊施設】

減要因	△景気低迷による法人需要の伸び悩み △横浜開港150周年に伴う来街者増の反動
-----	---

【観光地点等】

増要因	◎ゴールデンウィークの好天 ◎施設のリニューアル等による集客増
減要因	△横浜開港150周年関連イベント会場、Y150会場周辺施設の訪問客大幅減 △平成21年の秋季連休（シルバーウィーク）の反動 △春先の天候不順、晩夏猛暑による来街者減

お問い合わせ先

経済観光局 観光振興課長 星崎 雅代 Tel 045-671-3940

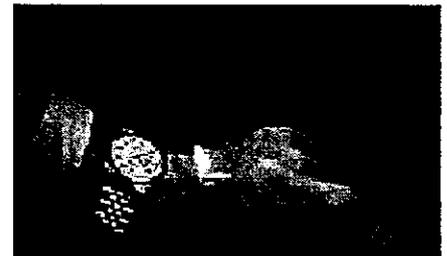
「ヨコハマトリエナーレ 2011」開催概要



◆「ヨコハマトリエナーレ2011」の内容

横浜トリエンナーレは、我が国を代表する現代アートの国際展として2001年にはじまり、今回が第4回展。世界各地より作家を選定し、多様な作品を展示します。第4回展のタイトルは「OUR MAGIC HOUR—世界はどこまで知ることができるか?—」

- ディレクター：総合ディレクター：逢坂恵理子
- アーティスティック・ディレクター：三木あき子
- 会期：2011年8月6日（土）～11月6日（日）
※休場日：8月、9月の毎週木曜日、10月13日、27日
- 会場：横浜美術館、日本郵船海岸通倉庫（BankART Studio NYK）、その他周辺地域
- 開場時間：11：00～18：00 *入場は17：30まで
- 参加作家：約65名/組【予定】
- 主催：横浜市、NHK、朝日新聞社、横浜トリエンナーレ組織委員会
- 共催：公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
- 支援：文化庁（国際芸術フェスティバル支援事業）
- 特別協力：独立行政法人国際交流基金



Christian MARCLAY《The Clock》2010
©Christian Marclay, Courtesy White Cube

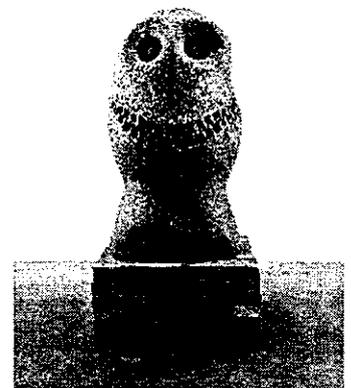
○特別連携プログラム：BankART Life Ⅲ（新港ピア）、黄金町バザール2011（黄金町エリア）

○入場料：◇ヨコハマトリエナーレ2011入場券（単位＝円）

	一般	大学・専門学校生	高校生
前売券	1,200	700	300
当日券	1,600	1,000	600

◇特別連携セット券（お得なセット券）（単位＝円）※

	一般	大学・専門学校生	高校生
前売券	1,400	900	400
当日券	1,800	1,200	700



Ugo RONDINONE 《moonrise.east.march》2005
Photo: Ellen Page Photography, New York
Courtesy Galerie Eva Presenhuber, Zurich

※中学生以下は無料（両チケット共通）

※特別連携セット券は、ヨコハマトリエナーレ 2011 会場以外の新港ピア（BankART Life Ⅲ）、黄金町エリア（黄金町バザール2011）との共通入場券

○前売券：全国のプレイガイド、コンビニエンスストアなどで発売中

○ホームページ：www.yokohamatriennale.jp

ヨコハマ トリエンナーレ2011 8.6→11.6

YOKOHAMA TRIENNALE 2011

OUR MAGIC HOUR

世界はどこまで知ることができるか？

会場：横浜美術館、日本郵船海岸通倉庫 (BankART Studio NYK)、その他周辺地域

Venues: Yokohama Museum of Art, NYK Waterfront Warehouse (BankART Studio NYK), and the surrounding areas

- 主催：横浜市、NHK、朝日新聞社、横浜トリエンナーレ組織委員会
- 共催：公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
- 支援：文化庁（国際芸術フェスティバル支援事業）
- 特別協力：独立行政法人国際交流基金
- 協賛：三菱地所株式会社、森ビル株式会社、日産自動車株式会社、アサヒビール株式会社、JVC・ケンウッド・ホールディングス株式会社、株式会社大林組、川本工業株式会社、株式会社資生堂、株式会社崎陽軒、株式会社サカタのタネ、株式会社横浜銀行、横浜信用金庫、馬淵建設株式会社、みなとみらい21供給株式会社
- 助成：財団法人アサヒビール芸術文化財団、公益財団法人野村財団
- 特別連携プログラム：BankART Life III（新港ピア）、黄金町パザール 2011（黄金町エリア）





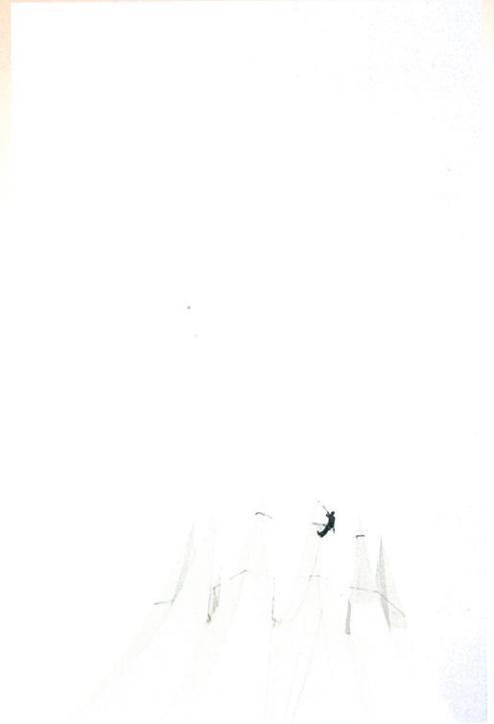
ヴェルネ・ドーソン / Verne DAWSON
《The Days of the Week (Friday)》2005
Private Collection, Switzerland courtesy of Victoria Miro
Gallery, London and Gavin Brown's enterprise, New York



イエッペ・ハイン / Jeppe HEIN
《Smoking Bench》2002
Installation view of ARoS, Denmark, 2009
Photo by Ole Hejn Pedersen
Courtesy: Johann König, Berlin, 303 Gallery,
New York and SCAI THE BATHHOUSE, Tokyo



薄久保香 / Kaoru USUKUBO
《D&D Delicate discovery》2007
© Kaoru Usukubo Courtesy of TARO NASU
Collection of Dozofu Tenmangū Shrine



野口里佳 / NOGUCHI Rika
《Untitled》2010
Courtesy: The Artist and Gallery, Kyushu

YOKOHAMA TRIENNALE 2011

OUR MAGIC HOUR

世界はどこまで知ることができるか？
How Much of the World Can We Know?

ヨコハマトリエンナーレ2011のタイトルは、「OUR MAGIC HOUR」。「世界はどこまで知ることができるか？」の問いのもと、横浜美術館、日本郵船海岸倉庫 (BankART Studio NYK) をメイン会場に、世界や日常の不思議、魔法のような力、さらには神話等に言及した作品に注目し、国内外で活躍する現代美術家の作品をはじめ、横浜美術館の所蔵品なども織り込んだダイナミックな企画を展開します。開港の地である横浜で、知らない世界の探求、新しい知識への航海ともいえるような展覧会をおし、自由な鑑賞の旅を堪能してください。

The Yokohama Triennale 2011, entitled "OUR MAGIC HOUR," will present art works at two main venues: the Yokohama Museum of Art and NYK Waterfront Warehouse (BankART Studio NYK). The exhibition will include works that respond to and/or reflect on the thematic question, "How much of the world can we know?," and allude to the magical and mysterious powers in our daily lives and the world, as well as those that refer to mythology and legend. The Triennale promises to be a vibrant exhibition that will showcase the works of dynamic contemporary Japanese and international artists, along with some pieces from the collection of the Yokohama Museum of Art and other institutions. We invite you to join us in Yokohama, one of the first port cities that opened its doors to the outside world, on this exploration of previously unknown worlds – a voyage into a realm of new, uncharted knowledge.



トビアス・レーベルガー / Tobias REHBERGER
《anderer》2002
Installation view, Gelfing - Ivichschor - Museum für Neue Kunst, ZKM, Karlsruhe 2002
© Tobias Rehberger 2002
Courtesy: neugebäude, Berlin
Photo: Wolfgang Tomert



荒木経惟 / ARAKI Nobuyoshi
《Koki No Shashin: Photographs of A Seventy Year Old》2010
Courtesy of TOTO Gallery



ウィルフレド・プリエト / Wilfredo PRIETO
《One》2008
Photo: Kei Zboron
Courtesy: the artist and Noguera/Bianchi/Borromeo



オレリアン・フロマン / Aurélien FROMENT
《Théâtre de poche》2007
Production: J.M. G. de Aurenier/Moët
Courtesy: the artist and Mottet Gallery, Amsterdam



ライアン・ガンダー RYAN GANDER
 (A sheet of paper on which I was about to draw, as it slipped from my table and fell to the floor) 2008
 Photo by Ikon Gallery, Jerry Hardman-Jones
 © Ryan Gander Courtesy of TAKO HANU
 David Collection



オノ・ヨーコ / ONO Yoko
 Courtesy of Yoko Ono

謎や矛盾を柔軟に受け止め、
 視点を変えれば
 世界は開けるかもしれない

By learning to accept mysteries
 and contradictions, by learning to
 change our perspectives, we might
 find that suddenly, like magic, the
 world is open and accessible to us.



岩崎貴宏 / IWASAKI Takahiro
 (Out of Disorder (Complex)) 2009
 Courtesy of the artist and ARATANIRUANO

参加予定作家 ※横浜美術館コレクションを含む(2011年5月現在)

- | | |
|----------------|---------------|
| 安部 泰輔 | ヘンリック・ホーカンソン |
| 荒木 経惟 | 韓盛弼 (ハン・スンピル) |
| リナ・パネルジー | イエップ・ハイン |
| マッシモ・バルトリニ | ダミアン・ハースト |
| ミヒャエル・ボレマンズ | 池田 学 |
| ジェイムス・リー・バイヤース | 今村 達佑 |
| ミルチャ・カントル | 石田 徹也 |
| ピーター・コフィン | 岩崎 貴宏 |
| ヴェナンツォ・クロチェッティ | 泉 太郎 |
| ピヨルン・ダーレム | チョン・ジュンホ |
| ヴェルネ・ドーソン | 櫻木 知子 |
| デワール & ジッケル | マイク・ケリー |
| マックス・エルンスト | ジルヴィナス・ケンピナス |
| オレリアン・フロマン | 金 理有 |
| ライアン・ガンダー | ヨアヒム・コースター |

- シガリット・ランダウ
 前田 征紀
 ルネ・マグリット
 マン・レイ
 クリスチャン・マークレー
 森 靖
 N.S. ハルシャ
 リヴァーネ・ノイエンスchwander
 ジュン・グエン=ハツシバ
 カールステン・ニコライ
 イサム・ノグチ
 野口 里佳
 スーザン・ノリー
 落合 多武

- オノ・ヨーコ
 メレット・オッペンハイム
 ウィルフред・プリエト
 スッシリー・ブイオック
 トビアス・レーベルガー
 ウーゴ・ロンディノーネ
 アレクサンドル・ロトチェンコ
 蝶峨 篤
 佐藤 允
 島袋 道浩
 杉本 博司
 孫遜 (スン・シュン)
 砂澤 ビッキ
 田口 和奈

- 田名網 敬一
 田中 功起
 立石 大河亞
 富井 大裕
 戸谷 成雄
 蔡佳蔵 (ツァイ・チャウエイ)
 薄久保 香
 歌川 国芳
 アビチャップン・ウィーラセタクン
 八木 良太
 山下 麻衣 + 小林 直人
 尹秀珍 (イン・シウジェン)
 横尾 忠則
 湯本豪一コレクション

Artists *includes Collection of Yokohama Museum of Art (As of May 2011)

- | | |
|--------------------|-------------------|
| ABE Taisuke | Henrik HÅKANSSON |
| ARAKI Nobuyoshi | HAN Sungpil |
| Rina BANERJEE | Jeppe HEIN |
| Massimo BARTOLINI | Damien HIRST |
| Michaël BORREMANNS | IKEDA Manabu |
| James Lee BYARS | IMAMURA Ryosuke |
| Mircea CANTOR | ISHIDA Tetsuya |
| Peter COFFIN | IWASAKI Takahiro |
| Venanzo CROCETTI | IZUMI Taro |
| Björn DAHLEM | JEON Joonho |
| Verne DAWSON | KASHIKI Tomoko |
| DEWAR & GICQUEL | Mike KELLEY |
| Max ERNST | Žilvinas KEMPINAS |
| Aurélien FROMENT | KIM Riyou |
| Ryan GANDER | Joachim KOESTER |

- Sigalit LANDAU
 MAEDA Yukinori
 René MAGRITTE
 Man Ray
 Christian MARCLAY
 MORI Osamu
 N.S. Harsha
 Rivane NEUENSCHWANDER
 Jun NGUYEN-HATSUSHIBA
 Carsten NICOLAI
 Isamu NOGUCHI
 NOGUCHI Rika
 Susan NORRIE
 OCHIAI Tam

- ONO Yoko
 Méret OPPENHEIM
 Wilfredo PRIETO
 René MAGRITTE
 Man Ray
 Christian MARCLAY
 MORI Osamu
 N.S. Harsha
 Rivane NEUENSCHWANDER
 Jun NGUYEN-HATSUSHIBA
 Carsten NICOLAI
 Isamu NOGUCHI
 NOGUCHI Rika
 Susan NORRIE
 OCHIAI Tam

- TANAAMI Keiichi
 TANAKA Koki
 TATEISHI Tiger
 TOMII Motohiro
 TOYA Shigeo
 Tsai Charwei
 USUKUBO Kaoru
 UTAGAWA Kuniyoshi
 Apichatpong WEERASETHAKUL
 YAGI Lyota
 YAMASHITA Mai + KOBAYASHI Naoto
 YIN Xiuzhen
 YOKOO Tadanori
 YUMOTO Goichi Collection



テワール&ジッケル DEWAR & GICQUEL
 (Offer and Trout) 2007

View of the exhibition Dewar & Gicquel FRAC Bassie Normandie, Caen, 2007
 Photo: Marc Simeoni
 COURTESY GALERIE LOEVENBRUCK, PARIS



前田征紀 MAEDA Yukinori
 (Light Lodge) 2007

Installation view of "Space For Your Future - Recombining the DNA of Art and Design", Museum of Contemporary Art, Tokyo, 2008
 Courtesy of the Museum of Contemporary Art, Tokyo



Photo: 427FOTO

PR Campaign Caravan
 Coming Soon!

ヨコハマトリエンナーレ2011
 PRキャラバン隊始動

スパイラルがプロデュースするPRキャラバン隊。まことクラブの遠田誠を隊長としたキャラバン隊が、6月より横浜市内他でヨコハマトリエンナーレ2011のPRパフォーマンスを行います。

ヨコハマトリエンナーレ2011

OUR MAGIC HOUR 世界はどこまで知ることができるか?

YOKOHAMA TRIENNALE 2011

OUR MAGIC HOUR How Much of the World Can We Know?

会期: 2011年8月6日(土)~11月6日(日)

休場日: 8月、9月: 毎週木曜日 10月13日(木)、10月27日(木)

開場時間: 11:00~18:00 ※入場は17:30まで
※開催時間等は変更する場合がございます。

会場: 横浜美術館、日本郵船海岸通倉庫 (BankART Studio NYK)
その他周辺地域

総合ディレクター: 逢坂恵理子

アーティストック・ディレクター: 三木あき子

Period: August 6th(Sat) ~ November 6th(Sun), 2011

Closed: August, September: Every Thursday
October: Every other Thursdays (13th, 27th)

Open: 11:00~18:00 *admission until 17:30
*There may be changes to the opening hours

Venues: Yokohama Museum of Art
NYK Waterfront Warehouse (BankART Studio NYK)
and the surrounding areas

Director General: OSAKA Eriko

Artistic Director: MIKI Akiko

チケット情報

前売券発売予定: 2011年6月1日(水)

全国のプレイガイド、コンビニエンスストアなどで発売(詳細はホームページで)
中学生以下、障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料

〈お得なセット券〉特別連携セット券

	一般	大学・専門学校生	高校生
前売券	1400	900	400
当日券	1800	1200	700

※ヨコハマトリエンナーレ2011と特別連携プログラム会場にご入場いただけるセット券

ヨコハマトリエンナーレ2011

	一般	大学・専門学校生	高校生
前売券	1200	700	300
当日券	1600	1000	600

Ticket Information

Advanced Ticket: On sale from June 1st (Wednesday)

Available at ticket agencies and convenience stores
(See official website for details)

Free admission for junior high school students, disabled person with ID and up to 1 attendant

〈Value Ticket〉Special Tie-up Ticket

	Adults	University Vocational School Students	High School Students
Advance Ticket	1400	900	400
Ticket on the day	1800	1200	700

*A joint ticket for discounted admissions to Yokohama Triennale 2011 plus 2 special tie-up programs.

Yokohama Triennale 2011 Ticket

	Adults	University Vocational School Students	High School Students
Advance Ticket	1200	700	300
Ticket on the day	1600	1000	600

アクセス Access ※会期中は各会場巡回無料シャトルバスを運行



特別連携プログラム

ヨコハマトリエンナーレ2011と会期を同じく、特別連携セット券の発行や無料シャトルバスの運行などにより一体となって催事を行う「特別連携プログラム」をご紹介します。

新・港村(しんみなとむら)~小さな未来都市(BankART Life III)

新・港村はあらゆる国と種類のクリエイターが働く屋敷のような小さな未来都市です。村の家や動物園や劇場は、優れた建築家やアーティストによってデザインされますが、全て廃材や粗大ゴミ等で構成されます。そして外部から電気をいただきます。太陽光発電と充電システム、また楽しみながらの人力発電でなんとかやっていきます。トイレも焼却型。夜はLEDや行灯が灯ります。新・港村は、東北と横浜の間を人や物資や知恵や力を積んで、何度も往來するためのプラットフォームです。毎週でるバスが、東北人と新・港村をつなぎ、未来社会へと出航します。

会場: 新港ピア 主催: BankART 1929
Tel: 045-663-2812 <http://www.bankart1929.com>



Special Tie-Up Programs

Special Tie-Up Programs are two NPO-initiated community programs that are held in conjunction with Yokohama Triennale 2011. Free shuttle bus services and discounted admission tickets are available for the two venues.

Shin Minatomura: A Small City for the Future BankARTLife III

Designed by a team of international creators, Shin Minatomura will employ the outstanding talents of its architects and artists to build houses, theatres and a zoo, all constructed from discarded wood and bulky garbage. Rather than importing electricity, it will create its own grid using solar energy, rechargeable systems and human generated power. Sewage will be incinerated. LEDs and lanterns will provide light by night. This blueprint for a future city will interconnect Tohoku, Japan's northeast, with Yokohama, thus creating a communal platform for their inhabitants, skills, commodities and energy sources. Embarking on a voyage towards a future society, a weekly bus will connect Tohoku with Shin Minatomura.

Venue: Shinko Pier Exhibition Hall Organizer: NPO BankART 1929
Tel: +81-45-663-2812 <http://www.bankart1929.com/>

黄金町バザール2011

アートによるまちの再生というテーマのもと、2008年より始まった「黄金町バザール」は今年で4回目を迎えます。2011年度は、街の環境を生かしたアーティスト・イン・レジデンス・プログラムに焦点をあて、国内外のアーティスト約20組が黄金町に滞在しながら、街という日常空間の中で多彩なプロジェクトを展開します。既存のスタジオや店舗空間、屋外空地の他、2011年夏に完成する京急線高架下の新施設も会場として加わり、街全体がアーティストのアトリエ、また発表の場となる実験的な3ヶ月間のプログラムです。会場: 黄金町エリア 主催: 黄金町エリアマネジメントセンター、初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会 Tel: 045-261-5467 <http://www.koganecho.net/>



Koganecho Bazaar 2011

Koganecho Bazaar was first held in 2008 with the aim of injecting new life into the Koganecho district through art. The 2011 program will be its fourth edition, and will focus on providing an artist-in-residence program for around 20 artists from Japan and abroad. The participating artists will organize projects that will be presented in the everyday setting of the local community using existing studio and shop spaces, empty lots as well as the new space due to open under the elevated Keiyo railway track in the summer of 2011. The program will be a three-month experiment that will turn the Koganecho area into a space for artist studios and exhibition spaces. Venue: Koganecho Area Organizer: NPO Koganecho Area Management Center, The Hatsunecho-Koganecho and Hinodecho Environment Cleanup Initiative Conference
Tel: +81-45-261-5467 <http://www.koganecho.net/>

横浜トリエンナーレ開催実績

開催年	2001	2005	2008
会期	9月2日～11月11日 (71日間) *休館日4日含む	9月28日～12月18日 (82日間)	9月13日～11月30日 (79日間)
主会場	[2会場] パシフィコ横浜展示ホール 赤レンガ倉庫1号館	[1会場] 山下ふ頭3・4号上屋	[7会場] 新港ピア 日本郵船海岸通倉庫 (BankART Studio NYK) 赤レンガ倉庫1号館 三溪園ほか
テーマ	メガ・ウェイブ ー新たな総合に向けて	アートサーカス [日常からの跳躍]	TIME CREVASSE タイムクレヴァス
ディレクター	アーティスティック・ ディレクター: 河本信治 建島哲 中村信夫 南條史生	総合ディレクター: 川俣 正	総合ディレクター: 水沢 勉
キュレーター	—	天野太郎 芹沢高志 山野真悟	ダニエル・バーンバウム フー・ファン 三宅暁子 アンス・ウルリッヒ・ オブリスト ベアトリクス・ルフ
参加作家数	109 作家	86 作家	72 作家
総事業費	約7億円	約9億円	約9億円
総入場者数 (※1)	35 万人	19 万人	55 万人
有料会場 入場者数	約15万人(※2)	約12万人	約30万人(※2)
チケット 販売枚数	約17万枚	約12万枚	約9万枚
ボランティア 登録者数	719人	1,222人	1,510人
メディア 掲載件数	統計なし	1,089件 (内、海外40件)	1,233件 (内、海外165件)

(※1) 総入場者数は、無料会場への入場者数を含む。

(※2) 第1回、第3回については、有料会場の延べ入場者数